



# 喫茶店文芸

2021年11月号

今月のお題「希望」

喫茶店文芸 2021年11月号——目次

天野満

ハゲはあけぼの 1

マサユキ・マサオ 机上の歌詞集（仮） 5

天野満

ハゲはあけぼの

MITSURU  
AMANO

ハゲはあけほの。やうやう薄くなりゆく生え際、少しテカリて、髪は薄く風にたなびきたる。

鏡に写った自らの貧しい頭髮が、俺を薄毛界の清少納言にした。ハゲたくないよー、ヤダヤダヤダ。と床に転がって駄々をこねても髪の毛は生えてこない、どころか、暴れ散らかしたら、また数本髪が抜けたのである。

よし、毛生え薬飲んだろかいな、いや、でも金はかかるし、人体にどんな影響があるかわかったものではない。それに毛が生えると言っても、髪とは限らず、ヒゲやその他毛だけが濃くなる可能性もある。薬を辞めた途端にハゲまくるとも聞いた。むう、薬はリスクいだ。

希望は潰えたり。さつさと辞世の句を読み、坊主にするか。まあ、それはそれでカッコええし、便利そうじゃないか。

でもやっぱり髪の毛でオシャレしたいときもありますよねー、と年頃の娘のような願望を俺は捨てることが出来なかった。そして、あれこれ考えたあげく、俺は「髪で遊びたいときはウィッグをつける」という結論に辿り着いたのである。

ウィッグ。それは日本語でいうところの「カツラ」である。芥川龍之介の『羅生門』で老婆が作ろうとしてたアレだ。もっともあんなにおどろおどろしくはないけれども。

ウィッグも昔は高価な上に作り物丸出しであり、とても実用性に耐えられなかったそうだが、最近は技術の進歩により、手頃な価格で良質なものが手に入るようになってきているらしい。インターネッツショッピングで色々なウィッグを惹かれながらも、俺はモ

ワモワした気持ちを抱えていた。

いくらウィッグなどとオシャレな感じの言葉を使ってもやはりヅラはヅラではないか。

どうにもオッサンがつけるカツラに対する面白おかしなイメージが払拭できず、強風に煽られて慌てふためいたり、ハリセンで頭をどつかれて、勢いよく飛んでいったりするシーンが連想されてしまうのであった。

もう俺は一生髪で気持ちよく遊べないのか、俺が髪の毛を伸ばし、金髪にしてチャラチャラしてたころに買った服も全部タンズの肥やしになるのか、さみしいなあ、と思っていたその時だった。俺の頭の中にハゲしい、いや激しい雷が走り、とんでもないことを思いついたのである。

いつそのこと、女装するか。

えええええええ、*really?* と、自分自身なりながらも、俺は笑いが止まらなかった。初めてベースギターを弾いたときのような、小説を書きはじめたときのような、底知れない高揚感が俺の心を満たした。

で、俺はロックをやるときと、小説を書くときだけ女装してやろうと思った。

俺の場合、女性になりたいというのではなく、スーパーヒーローに変身するような心持ちなのだ。ロックにはグラムロックと呼ばれる、中性的なファッションが特徴的なジャンルがあるのだけれど、それを目指すような感じになるのかもしれない。芸術をやっ

ている瞬間、俺は自由だ。性別、地位、収入、その他、世間から突きつけられる「ジョーシキ」や「アタリマエ」を蹴っ飛ばして、思いつき躍動する。うだつのあがらない三十歳手前の会社員のオッサンが、家に帰ると、女装して芸術をやっている。それを会社の人は知るよしもないとは何とも面白いではないか。

いつの間にかカツラに対する抵抗感も無くなった。女装ならば仕方ないよね、と何故か不思議と納得できたのである。

ひとしきり笑って、洗濯物を取り込み、ベランダに出ると夜だった。でも俺はたしかに朝焼けを見たんだよ。(了)



マサユキ・マサオ

机上の歌詞集（仮）

MASAYUKI  
MASAO

私がネット上の某掲示板に歌詞（仮）を投稿していたのは、平成も半ば、十年以上前のことになる。行き場の無いパッションを抱えていた私は、本当はバンドがやりたかった。しかし、私は楽器が出来なかった。正確に言うとは楽器を練習する根性、加えて仲間を集う行動力が無かった。文芸サークルに所属してはいたが、ろくに長編を書かないので、思いついた言葉の連なりはほとんど詩として残していた。

歌詞（仮）というのは、つまり歌の無い歌詞のことである。楽器の出来ない私は、勿論作曲も出来ない。歌詞の投稿サイトであるにも関わらず、歌えない歌詞をひたすら投稿していたのである。今思うと不毛なことだが、これが私の創作の原点なのだ。

高校生から大学生と言う年齢はバンドというものに憧れやすいものだが、当時の自分は歌詞（仮）を書く上で、筋肉少女帯とバンドオブチキンという両極端な二つのバンドから同時に影響を受けていた。例えるなら、懐石料理とイタリアンを同時に作ろうとしていたようなものである。なので、自分の中では「ダークサイド」「ライトサイド」と勝手に頭の中で分けている。決して、明るいか暗いかといった意味ではないが、説明が難しい。

まとめて投稿するなら統一するべきかとも思ったが、どちらかが本当の私、とは言い切ることが出来ない。どちらも自分だし、両方大事にしていきたい気持ちがある。小説を書くうえで常々悩むことだけれど、極端な二面性もまた私の個性だと思うことにする。

（ダークサイド・オブ・ザ・リリック）

「実写版ぐりとぐら」

ねずみの着ぐるみだけど  
猫も逃げちゃうよ

ねずみの着ぐるみだけど  
少しタバコ臭いよ

みんなお友達になろうよ  
二人はぐりとぐらさ

ねずみの着ぐるみだけど  
ミッキーじゃないよ

ねずみの着ぐるみだけど  
ちよっと愛想ないよ

おとぎの森に住んでいる  
二人はぐりとぐらさ

マグロ漁船に乗るよりは  
着ぐるみになろう

顔を見られるくらいなら  
ねずみになろう

人生色々あるみたいだね  
二人はぐりとぐらさ



「お兄ちゃん&お姉ちゃん」

お葬式でにらめっこしてもいいの？  
涙目のウオツカに火をつけてもいいの？  
ゴキブリを大切に育ててもいいの？  
ねえねえ、すぐくどうでもいいよねえ  
だいぶね、半端ね、チョココルネ  
良くもね、悪くもね、君の頭はすっからかんだね

とても愛おしい君はニヒル  
ねえねえ、つて口癖だから  
ねえちゃんって呼んであげようか？  
本当の姉ちゃんはメンヘラ  
僕がお兄ちゃんになるから  
結局ニイニイ蝉ってことなのかな？

借金して宝くじ買ってもいいの？  
花束でちゃんばらしてもいいの？  
十年前の失恋を泣いてもいいの？  
ねえねえ、きつと大丈夫だよねえ  
多分ね、デラシネ、時々ね  
良くもね、悪くもね、車もそれほど走ってないね

とても愛おしい君はシュール  
とても不安そうな笑み浮かべ

とても危ないこと考えてたのかな？  
本当は神様なんていないから  
僕が神様になるから  
結局この世は二人ぼっちなのかな…？

「傷ついたのは誰の心」

婆っちゃんが不倫して

爺っちゃんが首を吊った

保険金は遺書通りに

ユニセフに寄付された

ケチな嫁は歯軋りして

それを悔しがっているんだけど

傷ついたのは誰の心？

傷ついたのは誰の心？

ねえねえねえ、ねえってば！

俺は探偵に依頼して

婆っちゃんの行方捜す

隣町のタバコ屋で

婆っちゃんは見つかった

不倫相手は探偵の孫で

俺はそいつの同僚なんだけれど

傷ついたのは誰の心？

傷ついたのは誰の心？

ねえねえねえ、ねえってば！

サディストの同僚は笑う

常識とはなんぞやって

SMS  
プレイに耐えかねて

婆っちゃんは帰ってきた

俺に泣きついてきたから

爺っちゃんの遺影で殴ったんだけど

傷ついたのは誰の心？

傷ついたのは誰の心？

ねえねえねえ、ねえってば！

「マツチヨが売りの少女」

どこからどう見ても…マツチヨ！

うふふんと色っぽく踊る君は

どこからどう見てもマツチヨ

悩ましげな表情で踊り狂う

君の二の腕に光る力こぶ

どう？ 綺麗？ 今夜一緒に

あなたと私とてもお似合いよ

大丈夫だわ、心配いらぬ

お金のことは任せてね

掃除、洗濯任せてね

マフィアが来ても任せてね

だってだって私があるあなたを守るんだもの

ケラケラと笑い叫んでる君は

どこからどう見てもマツチヨ

ビールぐびぐび呑み干している

君はいつでも有りのままだね

どう？ 綺麗？ 今夜一緒に

あなたと私とてもお似合いよ

大丈夫だわ、心配いらぬ

老後のことは任せてね

ご近所付き合い任せてね

少しくらいの浮気なら許すわよ

だってだって私があるあなたを守るんだもの

あなたと私前世からの約束

殿方はひ弱な皇子

私はマツチヨなボディガード

秘められた恋

でもいつも一緒でした

身代わりとしてジェイソンの手にかかった私をお忘れですか？

これからはずっと二人きり

だからあんまり驚かないで

うふふんと色っぽく踊る君は

どこからどう見てもマツチヨ

悩ましげな表情で踊り狂う

君の二の腕に光る力こぶ

どう？ 綺麗？ 今夜一緒に

くライトサイド・オブ・ザ・リリックく

「惑星K」

欲しいのは巨大パラボラアンテナ

君に声を届けるんだ

発信距離最大にセット

見切り発車もいいところ

でも、君が待ってるんだから

惑星Kの公園のベンチで僕を待っているんだから

銀河鉄道の夜

オリオンが落ちて

さそりが昇る季節

君は旅人になった

一体今頃、何光年先にいるのやら

もしも旅先で僕を待つとしたら

唯一の手がかりは

君が書いた小説の舞台惑星Kさ

星の夜、思いを馳せた争い無きユートピア

いつか行くんだって笑ってたろう？

できるならアインシュタインになって

君の痕跡捜しに行こう

平行世界に君はいる

時の狭間、閉じ込められてる

…なんて馬鹿なコト考えてる

でも君は待っているんだから

惑星Kの公園のベンチで君を待っているんだから

「少年ナイフとピストル少女」

私は追っ手 君は逃げ手

何でなんだろう 何でムキになって

私を置いて 隠れないで

隣に居てよ 置いていかないでよ

私そうゆうのがイライラするの

大人しく手を挙げなさい

少年ナイフとピストル少女

傷だらけの心撃ち抜いてあげる

ご機嫌斜め 君のせいだ

何でなんだろう 何で君なんだろう

君は笑って 平気なフリ

どうでもいいのに 私苦しかった

君はどうにも素直になれないね

大人しく手を挙げなさい

少年ナイフとピストル少女

傷だらけの心撃ち抜いてあげる

地平線追って 星を見上げて

俯いてたら 目隠しされたの

君はオリオン そしたら私……

私サソリなの？ 馬鹿にしないでよ！

これっていわゆる運命なのかな  
いえいえきつと勘違い

少年ナイフとピストル少女

傷だらけの心抱きしめてあげる

「Submerged Piano」

深い海に隠された Melody  
遙か昔 君が沈めた Piano  
蒼鉛の冷たい海に忘れられた Piano  
目を瞑れば見えるのだけど  
僕にはきくと触れられやしない

Submerged Piano

ずっと追いつけている

Submerged Piano

不安定な音色の正体

Submerged Piano

耳を塞げば聴こえるけれど

Submerged Piano

唾を飲み込むノイズに消えた

古いセピア色みたいな記憶

追うほどに零れ落ちる感触

ゆりかごの様におぼつかない景色

夢現 誰かに呼びかけるけれど

目覚めればもう思い出せない

Submerged Piano

音の無い深海に響く

Submerged Piano

僕の不安を誘う記憶

Submerged Piano

耳を塞げば聴こえるけれど

Submerged Piano

まるで失われた楽譜の祈りだ

「星のかげら」

僕達はいつも虚しい存在

闘い疲れて空を見れば

いつか自分も輝いている

いつも自由で何故か寂しい

苦しまないと生きていけない

そんな星のかげらが

今日も迷っている

夜の街を走っている

僕は何者かと叫んで

星の間を流れてゆく

生きてゆくこと、死んでゆくこと

考え疲れて、夜が白けて

今日も無意味に生かされる日々

全ての自由が何故か苦しい

楽になるには死ぬしかないのか

そんな星のかげらが

今日も迷っている

夜の街を走っている

僕は何者かと叫んで

星の間を流れてゆく

僕達はいつも虚しい存在

喜びもいつか、悲しみもいつか

いつか誰もが消える運命

今より前は全て思い出

時には忘れないと生きていけない

そんな星のかげらが

今日も迷っている

夜の街を走っている

僕は何者かと叫んで

星の間を流れてゆく

喫茶店文芸



2021年11月号

HP URL : <http://literarycafe.wp.xdomain.jp/>